



令和2年

5月

ソフィアだより



「生きる」

生きているということ いま生きているということ
笑えるということ 怒れるということ
自由ということ

谷川俊太郎 「生きる」より抜粋



青

い空に泳ぐこいのぼりを見つけたときは、「いいなあ」と思わず声に出しました。

5月、空にたなびくこいのぼりに、平穏な日々が戻ることを祈ることになると誰が予想したでしょうか。まさかの事態に、なすすべもなく、現状が突き進んでいきます。

子どもたちの日常が奪われ、大人たちのあたりまえが消え、心痛い日々が続いています。

「コロナの時代の僕ら」パオロ・ジオルダーノ氏の文書がアマゾンで品切れ状態になっていました。『たとえばこんな問いだ。すべてが終わった時、本当に僕たちは以前と全く同じ世界を再現したいのだろうか。 コロナウィルスの「過ぎたあと」僕は忘れたくない。 嘲り、不信、自己中心的な愚鈍な自分、頼りなくて、支離滅裂でセンセーショナルで感情的でいかげんな情報、自己主張をやめなかった政治家たち、自然と環境に対する人間の危うい接し方、環境破壊・・・

そのうち、復興が始まるだろう。だから、僕らは今からもう考えておくべきだ。いったい何に元通りになってほしくないのかを。・・・』 — コロナの時代の僕ら あとがきより抜粋 —

子どもたちに、希望ある未来を渡すために、大人の私たちがそれぞれの場所でできることは・・・今努力することは・・・と、問いかけます。

自分の体に毎日向き合い自分を大切に思うという気持ちにあらためて気付かされた1ヶ月です。自分を大事に、周りを大事に、1日1日を大切に。精神的にも経済面でも疲れはてた社会に光をもたらすものは純粋なる子どもの存在です。コロナの時代を生きていかねばならない私たちは、勇気を持ち、しかし、慎重に、周りでおこるものごとを深く考え、乗り越え進んでいくことを子どもたちに教えていく使命を背負わされました。

科学の力を信じ、子どもたちの未来を明るいものにするために保育現場では笑顔忘れずにいようと思います。

ソフィア東生駒こども園 園長 中畑直実

